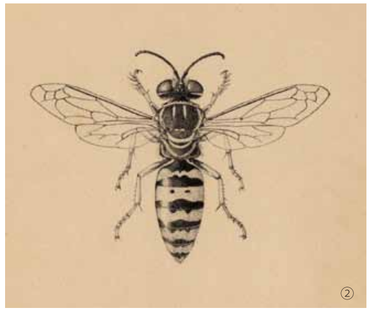
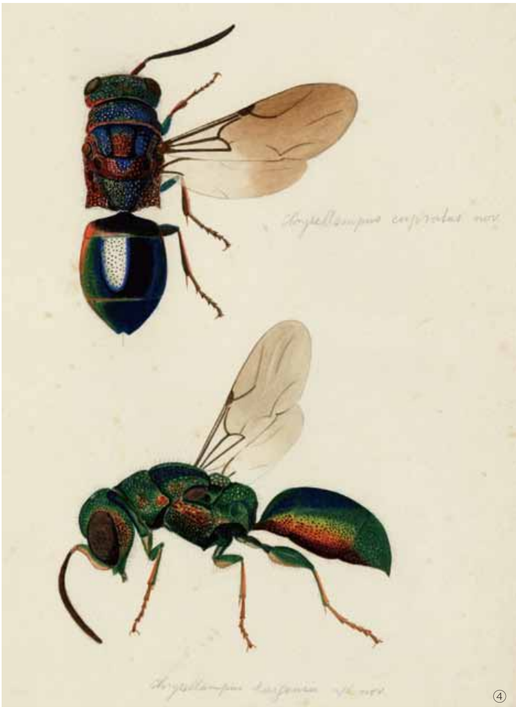
ひとはく図鑑

日本のファーブルたちが描いた昆虫画

①


②

③

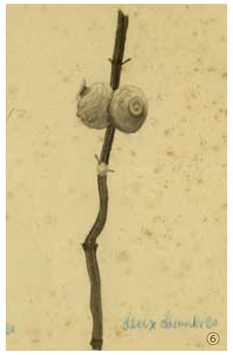

④

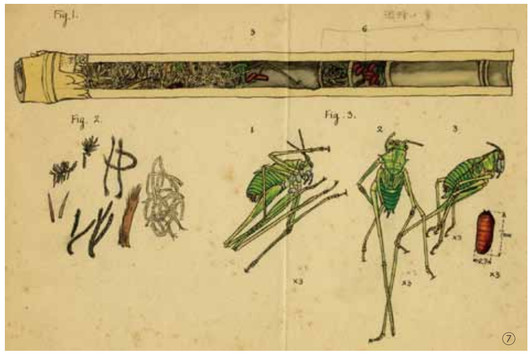
ファーブルはハチ類や糞虫など色々な昆虫の習性を観察し、その成果を昆虫記に残しました。しかし、彼の研究は祖国フランスではあまり理解されず、むしろ遠く離れた日本で、昆虫記の熱烈な読者であった3人の研究者　岩田久二雄、常木勝次、坂上昭一に引きつがれました。この3人は「日本のファーブルになる」という夢をもって昆虫学に専念し、研究だけでなく、ファーブルのように昆虫観察のおもしろさを伝える本を多く出版しました。３人がファーブル昆虫記から受けた感動は、彼らの本を通じて、さらに次の世代の子供たちに受け継がれ、今も、私を含め、多くの「ファーブルの孫弟子」たちが日本で昆虫の研究を続けています。

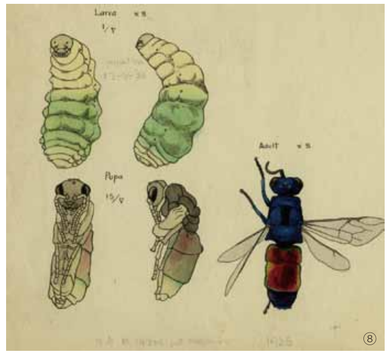
日本のファーブルたちが残した標本や昆虫細密画、観察ノート等のほとんどが、ひとはくに寄贈されました。ここに掲載しているのは、その細密画や観察ノートの一部です。優れた研究者が正確な科学知識と観察眼で描いたスケッチからは、単なる科学写真やイラストが持ち合わせない迫力が伝わってきます。

橋本佳明（自然・環境評価研究部）

⑤


⑥


⑦


⑧

①：ツヤバチのなかま。ヨコバイ類を狩って幼虫の餌にします。画：常木勝次　②：ハナダカバチのなかま。砂浜などの地中に巣をつくりハエを狩ります。画：常木勝次　③：ハバチのなかま。幼虫は青虫のように葉っぱを食べます。画：常木勝次　④：セイボウのなかま。青や緑色の金属光沢のある美しいハチです。画：常木勝次　⑤：ハリナシバチのなかま：ミツバチのように社会生活をするハチで、その行動観察を記録したノート（右）から、女王バチの産卵シーン（左）を書き起こしています。画：坂上昭一

⑥：トックリバチの巣。このハチはドロをこねて徳利のような巣をつくり子育てをします。画：岩田久二雄　⑦：コクロアナバチの巣。このハチは竹筒などに藁で仕切りをつくり、そこにキリギリス類を狩り集めて子育てをします。画：岩田久二雄　⑧：セイボウの幼虫、サナギ、成虫。セイボウは、ほかのハチの巣に侵入して寄生をします。画：岩田久二雄

兵庫県立人と自然の博物館 Museum of Nature and Human Activities, Hyogo https://hitohaku.jp
hitohaku news paper
学びっ！
人と自然の応援情報誌　ハーモニー74号　23頁　P2-0071A3
ひとはく新聞
2011/9/30号 平成23年 保存版

TEL：079-559-2001（ひとはくの代表番号です）
TEL：079-559-2002（学校や団体のご利用の方はこちらにおかけください）
TEL：079-559-2003（セミナーやイベントなどのお問い合わせ先です）

〒669-1546
兵庫県三田市弥生が丘６丁目
兵庫県立人と自然の博物館
（兵庫県立大学 自然・環境科学研究所）
http://hitohaku.jp

ひとはくジオキャラバン「おもれェ～！ 山陰海岸ジオパーク」開催中

今年のキャラバンは「おもれェ～！ 山陰海岸ジオパーク」と称して、山陰海岸ジオパーク内の各地を巡っています。「おもれェ～」というのは京丹後から但馬地域、鳥取にかけての山陰海岸地域の方言で、おもしろいという意味です。キャラバンでは鳥取市・岩美町・新温泉町・香美町・豊岡市・京丹後市の6市町にある施設で、等身大エチゼンクラゲ、巨大テトラポッド、ウミホタルや魚の標本など海に関係した展示をおこない、各施設や活動グループの特色に合わせた野外観察やセミナーなどを展開していきます。

ジオキャラバンは山陰海岸ジオパーク館から出発します。期間は7月16日～8月29日で、この新聞が発行されたころには終わってしまっていますが、館内にはジオパークを説明したパネルや岩石がたくさん展示されていますので、ジオパークのことを知りたい人はまずここを訪ねてみてください。

2番目は香美町海の文化館で、9月１日～9月27日に開催されます。ここは香住海岸の海や自然、北前船やカニ漁などの展示が充実した施設で、なかでも海の魚を網羅した大量のはく製は圧巻です。キャラバンでは香美町やNPO法人たじま海の学校の皆さんと協力して、ジオパークガイド養成講座などのセミナーも開催します。

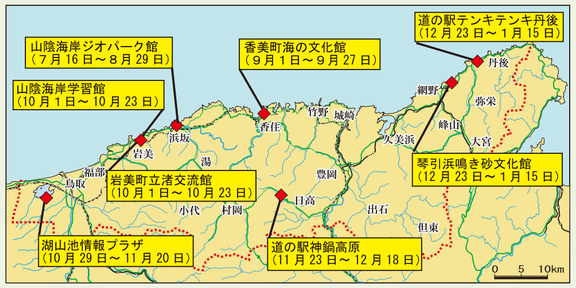
10月1日～10月23日には岩美町立渚交流館で開催されます。ここではNPO岩美自然学校、いわみガイドクラブ、隣接する鳥取県立山陰海岸学習館（鳥取県立博物館の分館です）、鳥取県地域づくりセンターなどと協力して開催する予定で、近くの浦富海岸へのジオガイドツアーや海岸の石の観察会などを計画しています。

10月29日～11月20日に開催する湖山池情報プラザは、日本で一番大きな池といわれている湖山池のほとりにあります。ここでは石釜漁という独特の漁法や昭和初期に城崎や松江をつないだ水上飛行機の発着場の跡があります。キャラバンでは湖山池に焦点をあてた展示やセミナーを展開します。ボートで湖山池の無人島探検ツアーも計画しています。

11月23日～12月18日開催の道の駅・神鍋高原は、近畿地方で最も新しく頂上には噴火口も残る神鍋火山の麓にあります。山野草を愛でる会の人たちや道の駅の人たちと連携し、神鍋火山の成り立ちや特有の植物、噴火で流れ出た溶岩流の独特の地形などに注目した展示やセミナーが展開されます。

最後の京丹後市琴引浜鳴き砂文化館では、正月をはさんだ12月23日～１月15日に開催します。（12月28日～1月3日はお休みです）。ここは鳴き砂で知られる琴引浜の近くにあり、鳴き砂に関する様々な情報、世界の鳴き砂についての展示や、観察や体験コーナーが充実しています。ここでのキャラバンは海岸や海に特化した展示やセミナーを実施します。

ジオキャラバン実施場所



1. エチゼンクラゲ

2. 展示（山陰海岸でとれる魚）

3. キューブパズル

4. 地震の震動実験

5. 液状化実験

6. 偏光シートの万華鏡づくり

このように「おもれェ～！ 山陰海岸ジオパーク」は特徴ある6市町の施設を巡ります。本当は全部見てまわりたいところですが、そういうわけにもいきません。そこで、2012年2月4日（土）～3月11日（日）にはひとはくで展示「めぐってきました！ 山陰海岸ジオパーク」を開催し、各地での展示やその様子を紹介いたします。ぜひ、各地のジオキャラバンにお出かけください。そして最後にひとはくで会いましょう。

先山　徹（自然・環境評価研究部）

ひとはくコラム

日本の都市と緑

国土のわずか4%に満たない空間に総人口の3分の2がひしめきあう。それが日本の都市です。この過酷ともいえる環境の中で、都市ができる前からあった緑が連綿と続いています。神社の樹林、鎮守の森です。今日都市の緑といえばまず公園を思い浮かべますが、公園ができたのは明治になって近代的な都市づくりが始まってからのことで、せいぜい百年ほど前に過ぎません。それに対して、鎮守の森は、その土地に人が住みはじめたころからあり、古いものでは千年をはるかに超えている、と考えられます。

そこまで古くはなくても、公園より古く江戸時代に起源をもつ緑もあります。城址の樹林、お城の森です。人口十万人以上の都市の半数以上はかつて城下町でしたから、すべてが残っているわけではありませんが、この森もまた鎮守の森と同様日本の都市に普通に見ることができるものです。

これらの森は、都市のなりたちと密接な関係をもっています。都市を構成する多くの地区の中心にある鎮守の森、都市全体の中心にあるお城の森。中心に森があることに、日本の都市の特徴があるといえます。

文化的な価値の視点から自然を研究し発信することも、博物館の役割のひとつです。

田原直樹
（兵庫県立人と自然の博物館　研究系次長）